

発達障害のある子どもと家族が 安心して暮らしていける 地域社会の実現に向けて

～地域の強みと課題を見える化し、地域に合わせた支援体制作りの一歩～



講師：今出 大輔 氏

(こども家庭庁 支援局 障害児支援課
発達障害児支援専門官)

日時：令和5年11月22日(水)
13:30～16:30(受付：12:45～)

場所：まりりんぎのわん・宜野湾マリン支援センター
2階研修室(〒901-2223 宜野湾市大山7-10-27)



対象：市町村行政職員(母子保健、保育、教育委員会、
障害福祉等)、市町村児童発達支援センター



定員：集合型 **120名**

※是非、各課お誘いあわせください！

○ 申込方法：

- ・左記QRコードより申込
- ・申込フォーム <https://forms.gle/MSriYLEqPoTBF7Ru8> より申込
- ・沖縄県発達障害者支援センターHPの研修ページからアクセス

※申込期限：**令和5年10月25日(水)午後5時〆切**



講師紹介：今出 大輔 氏(こども家庭庁 支援局 障害児支援課 発達障害児支援専門官)

公認心理師、臨床心理士。おかやま発達障害者支援センター、旭川荘療育・医療センター医務課(児童精神科・小児科)心理セクション、旭川荘真庭地域センター発達相談等を歴任。2021年2月～こども家庭庁設立準備室(内閣官房)／厚生労働省 障害児・発達障害者支援室を経て、2023年4月～現職。

厚生労働科学研究では、本田秀夫班「地域特性に応じた発達障害児の多領域連携における支援体制整備に向けた研究」や日詰正文班「強度行動障害者支援に関する効果的な情報収集と関係者による情報共有、支援効果の評価方法の開発のための研究」等へ協力委員として参加。

ー タイムスケジュール ー

開会挨拶 (13:30～13:35) 【国立リハビリテーションセンター発達障害情報・支援センター長 山脇 かおり 氏】

1. 行政説明・情報提供 (13:35～14:25)

- ①【行政説明】市町村における発達障害児支援の体制整備について 今出大輔 氏
- ②国立特別支援教育総合研究所 発達障害教育推進センターの取組み 井上秀和 氏
- ③国立障害者リハビリテーションセンター 発達障害情報・支援センターの取組み 与那城郁子 氏

2. 講演(14:35～15:20) 【講師：今出 大輔 氏】

「Q-SACCS(発達障害の地域支援システムの簡易構造評価)を用いた地域での支援体制づくり」

Q-SACCS とは？

市町村の支援体制を「見える化」し、現状の強みや課題を明らかにする(支援体制を点検する)ツールとして開発されました。市町村の各部局や各課が主管する事業や取り組み、民間事業所への委託事業が、どのような役割を果たしているのか、事業と事業の「つながり」をどのように行っているのかを見える化することで、支援体制の点検が容易になります。

発達障害のある子どもと家族を支援するための地域支援体制づくり—Q-SACCS を使った「地域診断」マニュアル—より

3. 演習(15:20～16:25) 【講師：今出 大輔 氏】

「それぞれの市町村で Q-SACCS を作ってみよう！」

※Q-SACCS で“我がまち”の支援体制を「見える化」するワークです。ライフステージごとの担当課が参加していると、より充実した演習になりますので、お誘いあわせの上、ご参加ください。

閉会挨拶 (16:25～16:30) 【沖縄県発達障害者支援センター長 高良 幸伸 氏】

ー 留意事項 ー

- ☑受講決定のご連絡は 11/1(水)までに、申し込み頂いたアドレスへメールにて行う予定です。
- ☑新型コロナウイルス感染状況等によりオンライン研修へ変更になる場合がございます。開催の変更につきましては、当センターからメールにてご連絡致します。
- ☑対象外や申込数が多い場合等、当センターの判断の下、受講をお断りする場合がございます。

上記について、予めご了承下さい。

「発達障害のある子どもと家族が安心して暮らしていける地域社会の実現に向けて」

～地域の強みと課題を見える化し、地域に合わせた支援体制作りの一歩～
実施要項

1. 開催趣旨

発達障害児・者の支援については、発達障害に気づく段階から、全てのライフステージにおいて必要な支援を継続的に提供できる体制づくりが急務であるとされている。発達障害及び発達特性をもつ方たちを地域で支援する為には医療・保健・福祉・教育・労働の他領域チーム・アプローチによる息の長い支援体制を作っていく必要があり、関係機関は、各々の役割を認識し垣根を越えた連携を図ることにより、地域における一貫した支援システムを構築していくことが求められている。

今回、国立障害者リハビリテーションセンター発達障害情報・支援センター共催のもと、令和5年4月に発足されたこども家庭庁支援局障害児支援課の発達障害児支援専門官である今出氏を招聘し行政説明を頂き市町村における発達障害児支援の体制整備について学ぶ機会とする。

また、市町村の事情を踏まえた発達障害支援ニーズに対応する仕組みづくりの為には、まず市町村の現状を把握する事が重要となってくる為、研修後半は市町村の強みや課題などの支援体制を視覚化（発達障害の地域支援システムの簡易構造評価 Q-SACCS）できる演習を実施する事で支援体制の点検の初めの一歩とする。

記

1. 日時：令和5年11月22日（水） 13：30～16：30（受付 12：45～）

2. 場所・定員：まりりんぎのわん・宜野湾マリン支援センター 2階研修室 定員 120名

3. 内容

① 行政説明・情報提供

- ・開会あいさつ 国立リハビリテーションセンター発達障害情報・支援センター長 山脇 かおり氏
- ・【行政説明】市町村における発達障害児支援の体制整備について 今出 大輔氏
- ・国立特別支援教育総合研究所 発達障害教育・推進センターの取組み 井上 秀和氏
- ・国立障害者リハビリテーションセンター 発達障害情報・支援センターの取組み 与那城 郁子氏

② 講演

「Q-SACCS（発達障害の地域支援システムの簡易構造評価）を用いた地域での支援体制づくり」

講師：今出 大輔氏（こども家庭庁 支援局障害児支援課 発達障害児支援専門官）

③ 演習

「それぞれの地域のQ-SACCSを作ってみよう！」

進行：今出 大輔氏（こども家庭庁 支援局障害児支援課 発達障害児支援専門官）

- ・閉会挨拶 沖縄県発達障害者支援センター長 高良 幸伸氏

4. 参加対象者

発達支援に携わる市町村職員（障害福祉、母子保健、子育て支援、保育主管課・教育委員会）
市町村児童発達支援センター 各市町村 5名程度

5. 申込方法：別添「チラシ」参照